

開催年月日 平成28年6月27日
 質問者 公明党 吉井 透 議員
 答弁者 知事、観光振興監

| 質 問 要 旨 | 答 弁 要 旨 |
|--|--|
| <p>四 観光振興について (一) インバウンドについて 1 受け入れ体制の整備について (吉井議員) 本道においては、訪れる外国人観光客数が年々増加し、平成27年には190万人となるなど、文字通り国際観光の新時代を迎えております。 国では、平成32年における訪日外国人観光客数の目標を2千万人から4千万人に倍増し、道においても平成32年度に300万人に増加させる目標を掲げております。この目標を着実に実現するためには、受入体制の中でも何よりも旅行者の足の確保が必要と考えます。 新千歳空港のみならず、道内各地の空港や北海道新幹線など、交通機関を総動員した受入体制の整備が急務と考えますが、どのような重点的な取組を展開されようとしているのか伺います。</p> | <p>(知事) 外国人観光客の受入についてであります。海外から本道を訪れるにあたっては、国際定期便やチャーター便、飛行機の乗り継ぎ便を利用する外国人観光客が多数を占めている一方、3月26日に開業した北海道新幹線や大型クルーズ船などの多様な交通機関の利用を拡大していくことが期待されるところであります。 このため、道では、外国人観光客に対応できる人材の育成はもとより、道内各空港の空港機能の強化に加え、新函館北斗駅や新千歳空港の観光案内所の多言語対応化やクルーズ客船の寄港促進に向けた出入国管理体制の確保など、受入体制の整備や充実に努めるとともに、航空機と新幹線といった異なる交通機関を組み合わせ合わせた旅行商品の造成やPRを行うなど、外国人観光客の多様なニーズに対応した誘客プロモーションを展開をしまいる考えであります。</p> |
| <p>(二) フットパスを活用した滞在型観光について (吉井議員) 次に、フットパスを活用した滞在型観光についてであります。 近年、ありのままの風景を歩いて楽しむ、スローな旅の形態として、「フットパス」が注目されており、昨年とりまとめた「新・北海道ビジョン推進方針」においても、「地域資源を活かした多彩なツーリズムの展開」として、「ロングトレイルなどの多彩なツーリズムを推進し、滞在交流型の観光地づくりに取り組む地域を支援していく」などとしております。 そこで、道内におけるフットパスの整備状況は、どのようなになっているか伺います。 また、道として、今後、フットパスの普及をどのように進めていく考えなのか。さらに、本道の開拓の歴史にもなっている各地の「山道」のルート化など、新たなルートの整備にどのように取り組んでいくのか。道としての支援も含め、所見を伺います。</p> | <p>(観光振興監) 観光振興に関し、フットパスの活用についてであります。豊かな森林、美しい農村風景などの中を楽しみながら歩くフットパスは、地域との触れ合いを求める観光客の皆様にとって魅力的な観光メニューであり、「フットパス・ネットワーク北海道」のまとめによりますと、現在、道内で47箇所<small>ことう</small>のフットパスが整備されているところでございます。 道といたしましては、これまでも、古道を復元した「増毛山道」や、北海道遺産に登録されている「宗谷丘陵」のフットパスなどの整備や活用を図る地域の取組に対し、振興局や北海道観光振興機構を通じて、支援してきたところであり、今後、フットパスと、温泉や食などの様々な観光メニューを組み合わせた観光地づくりを進めるなど、地域の滞在交流型観光の促進に向け、取り組んでまいります。</p> |

平成28年2定 一般質問 開催状況

開催年月日 平成28年6月27日

質問者 公明党 吉井 透 議員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

| 質問要旨 | 答弁要旨 |
|--|--|
| <p>四 観光振興について (一)インバウンドについて 2 交通系ICカードについて 次に、交通系ICカードについてであります。 訪日外国人観光客の多くが、JRや地下鉄、バスなど、公共交通機関での移動の際に、ICカードを利用されていると聞いております。しかしながら、本道においては、都市部ではICカード1枚で各交通機関の利用が可能となっておりますが、地方では利用できず不便であるとの声も聞かれております。道としても交通関係各社と連携して、対応を検討すべきと考えますが、所見を伺います。</p> | <p>〔交通企画監〕 観光振興に関し、交通系ICカードについてありますが、現在、道内では、JR北海道のKitacaや札幌市営地下鉄などのSAPICAに加え、旭川や北見のバス事業者がICカードを導入しており、さらに、今年度、函館市の路面電車など道南地域においても新たに導入する予定と承知をしております。 国では、昨年7月、ICカードの普及等に向けた検討会において、導入費用の削減や国の支援措置の充実といった取組の方向性を取りまとめるとともに、今年度、訪日外国人の受入環境の整備を目的として、ICカードの導入を支援する補助制度を創設するなど、普及拡大に向けた取組を進めているところでございます。 道といたしましては、ICカードの利用環境の整備は、道民の皆様はもとより、外国人観光客の方々の利便性向上を図る上で、有効な手段の一つであると考えておりまして、ICカードの導入拡大に向け、国の施策の推進状況を把握しながら、交通事業者の方々に情報提供を行うなど、関係機関と連携のもと必要な取組を進めてまいります。</p> |